

長野県の同一ブロイラー農場で発生した *Enterococcus cecorum* による脊椎炎

鈴木健太^{1)†}山口慎輝子¹⁾徳武慎哉¹⁾中島冬萌¹⁾大倉正稔²⁾高松大輔³⁾

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/1/78_e1/_article/-char/ja

- 1) 長野県松本家畜保健衛生所 (〒390-0851 松本市島内西川原 6931)
- 2) (国研)農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 鹿児島研究拠点 (〒891-0105 鹿児島市中山町 2702)
- 3) (国研)農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2024 年 7 月 5 日受付・2024 年 9 月 17 日受理・2025 年 1 月 16 日公開)

要 約

2023 年 10 月、長野県内の農場でブロイラーが脚麻痺を呈し死廃数が増加した。剖検で第 6 胸椎を中心に椎体が腫大し、断面に膿瘍形成に伴う脊髄の圧迫を認めた。病変部から *Enterococcus cecorum* が分離され、病理組織学的検査で化膿性脊椎炎と診断した。2024 年 2 月以降に初発時と異なるロットの複数鶏舎でも脚麻痺を認め、すべての症例で椎体から *E. cecorum* が分離された。分離が最も早い症例は 7 日齢で、同居鶏を 10 日齢から投薬したが 29 日齢で一部が発症した。各症例の分離株は、パルスフィールドゲル電気泳動で同一または類似のパターンを示し、単一クローンの拡散が示唆された。また、分離株すべてが病鶏由来株に特徴的と報告された 5 遺伝子を保有していた。本研究は長野県で初めて確認した *E. cecorum* 感染症の報告である。——キーワード：ブロイラー、*Enterococcus cecorum*、脊椎炎。

----- 日獣会誌 78, e1～e7 (2025)